

建設、経営工学、総合技術監理部門
所属 (株)イトーキ 坪内 恭史

考・安全

・はじめに

今年2月ごろ、当時中1(現在中2)の長男が、バレーボール部活動中に体育館のステージから足を踏み外し、頭から転落した。当日、愚息は学校の先生に付き添われて帰宅した。先生からは、管理に問題があったこと等についての説明、謝罪、今後の対応の話があった。結果としては、病院でのCT検査、現在の様子からみて、転落による障害はなかった様子。親としてはホッとしている。

安全・安心という言葉が合言葉になっているような今日である。しかし、長男の転落の経緯を聞き衝撃をうけた。学校という公的な場所において、安全に対する危機意識がこれほど低いとは！

以来、安全に関する管理、教育などについて考えている。

私は、主に保管、搬送設備のエンジニアリング～工事完了まで仕事をしており、その中で当然安全対策、管理も行っている。また、労働安全コンサルタント資格も保有している。よって、安全に関する専門家といってもよいはず？である。しかし、あらためて考えるほど、「安全」というのは難しいと痛感している。

以下、ここ数カ月に考えたことを、書いてみる。

(安全について、あえて専門的に書くつもりはないことお許し頂きたい)

・愚息の転落についての経緯

当日の天候は雨。このため、通常屋外で行っている他の部活が体育館に押し寄せた。そこで、お互い場所を譲り合い部活を行った様子。長男のバレーボール部は、ステージ上を使うことにした。ステージは、競技を行うフロアより約1m程度高い場所である。ここで、バレーボールの練習を行った。そして、練習の中でボールを追い、ステージから足を踏み外し転落した。問題点を以下に挙げる。

ステージ上は転落危険があるにも関わらず、筋トレ等動きの少ない活動にできなかった。多少ボールを追っても転落しない程度の位置取りの配慮、その他対策もなかった。練習場所(ステージ上)と練習内容を指示したのは、よりによって先生だった。

[岐阜県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 田島 暎久 〒509-0108 各務原市テクノプラザ1-1 テクノプラザ内
TEL : 0583-79-0580 FAX : 0583-85-4316 Email: gcea9901@ybb.ne.jp

この経緯を聞いて、ショックを受けるのはおかしいだろうか？ 学校の安全に対する意識を疑わざるを得ない と思うのは私だけではないと思う。少なくとも、日頃、安全に関しては最深の注意を払って仕事をしている私は、「こんな安全意識の低い学校に子どもを預けられない」と頭に血が上った。翌日、学校に赴き、学校の安全に対する意識を問うた。

学校には、以下を申し入れた。

経緯から考え、先生の安全意識が低すぎる。ステージに転落の危険があることを予見できないようでは困る。

先生各個人の安全資質のみに頼るのみでは十分ではない。学校、PTA も含む組織として安全管理し、ルール化していく必要がある。少なくとも、転落の危険があるような場所での動きの激しい活動は制限すべきである。

危険箇所点検などを、先生だけでなく、PTA、生徒も一緒になって行ってはどうか？ 少なくとも市内の小中学校間では、事故などの情報共有化を図って欲しい。(市内の他の学校で、ステージから転落するようなことは起きないように展開してほしい。)

学校の活動単位(部活、野外実習など)で、企業がやっている KYK(危険予知活動)らしき事を行ってはどうか？ 参考までに、企業が使っている、安全施工計画書、リスクアセスメント、KYK シートなどを持って行った。

安全対策は、子どもを守るだけでなく、先生自身の生活を守ることにもなる。死亡事故でも起きれば、裁判沙汰になる。そうなれば、先生自身の生活も脅かされる。

学校での安全対策は、子どもを鳥かごに入れて、あるいは活動を過度に制限して、一切ケガのない過保護状態にしてほしいということではない。のびのび活動する中で、死亡などの重大な事故に及ばない配慮が必要である。

以上、大きく間違った申し入れをしたとは考えていないがどうだろうか？

その後、学校への申し入れが実行されているかどうかは、確認はしていない。

・学校における安全をどう考えるか？

学校が危険な場所と考える人は多くはないであろう。安全な場所であるはず、と考えるのが一般的だろう。しかし、学校での死亡事故は減っていない とのニュースが最近あった。特に、転落事故が多いとのこと。そこで、文部科学省が、死亡事故削減に乗り出すとの事である。また、中学での柔道剣道の必須化に伴う安全管理のニュースもある。

要するに、まだまだ、意識、仕組み共に取り組みが始まったばかりの様である。労働者に対する安全への取り組みに対し、子どもの安全確保は遅れていると言わざるを得ないようである。

学校における安全管理、安全教育はどうしていけばよいであろう？ 私自身の記憶をたどれば、小中学生時代に安全一般に関する教育を受けた記憶はない。先生や親などからの声かけと、実生活や遊びの中の体験から学んできたように思う。現在もそれは変わっていないのであろう。しかし、現代ではそれだけでは不十分な時代に入ったのではないだろうか？ ゲーム機器の普及など生活様式も変化し、子どもが安全を身につける機会が減っているのかもしれない。また、管理する学校の責任を問うという世情もある。

難しいのは「学校での安全対策は、子どもを鳥かごに入れて、あるいは活動を過度に制限して、一切ケガのない過保護状態にすることは望ましくない。のびのび活動する中で、死亡などの重大な事故に及ばない配慮が必要である。」ということである。さらに、そのような配慮をしつつ、子ども自身に、危険から自らを守る力を養わせなければならないということである。

もっと簡単にいえば、「死亡事故にはならないが、軽度のケガで済む程度の危険を残し、危険発見能力、危険回避能力、安全対策能力を育てる。」ということ意識的にやっていかなければならないのではないかとということである。さらにその中で、モンスターペアレントを含む様々な親からの苦情？にも対応できなければならない。考えれば考えるほど、気の遠くなりそうな難題である。

・考・安全

元来、人間は危険を好む動物なのかもしれない。ロッククライミング、ラフティング、平均台で宙返り、遊園地のジェットコースターなどなど、危険（スリル）を楽しむものを挙げればきりが無い。そして、どこまで危険なことに挑戦できたかを競い合ったりしている。もちろん、一般的には安全対策などを併せてやってはいる。しかし、チキンレースなど、度胸を試すようなこともやる。人間の特質と言っても良いのかもしれない。これをどう考えれば良いのだろうか？

安全な環境というのは、必ずしも良いとは言えない。高齢化対策などで、バリアフリーが進められている。しかし、バリアフリーの家に住む人よりも、バリアフリーでない家に住む人の方が長生きという話もある。魚でも、同じ種類と魚のみという環境よりも、天敵がいる状態の方が長生きするということが聞かれたことがある。つまり、ある程度の危険があった方が、緊張感もあり、また、結果的に身体能力を向上するのか？ 良いかもしれない、ということである。

安全と考えている事が、必ずしもそうでない という事例もある。

[岐阜県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 田島 暎久 〒509-0108 各務原市テクノプラザ1-1 テクノプラザ内
TEL: 0583-79-0580 FAX: 0583-85-4316 Email: gcea9901@ybb.ne.jp

岐阜県技術士会会報

-NN
20NN. N.NN

発行人 田島 暎久
編集人 寺崎 均

一般に、交差点に信号がある方が安全と考えられている。しかし、そうではないようである。信号がある交差点と信号のない交差点では、信号のない方が事故が少ないのである。信号がない方が全員注意するので、結果として事故が少ない。信号どころか、横断歩道もない方が事故は少ないようだ。安全のための歩車分離を進めてきたが、今後は、安全のための歩車混合 となっていくかもしれない。

しかし、信号がない交差点は、交通量処理能力が低い。つまり、信号をなくしていくと、安全にはなるが、渋滞は増えることになる。現状は、安全を犠牲にしつつ、効率を追求していると言えるのかもしれない。

こんな話もある。「自転車に乗る時、ヘルメットをかぶらない方が安全」というのである。ヘルメットを被っていると、自転車のそばを通る車は安心感から近くを通る。ヘルメットを被っていないと、車は自転車から遠ざかって通る。その結果、ヘルメットを被っている方が事故が多いというのである。では、ヘルメットを被っていないように見えるような模様（髪型など）のヘルメットをつくってはどうか？等と考えてしまうがどうだろうか？

私のお得意先に、大手自動車部品メーカーがある。このメーカーの工場の設備の安全基準は大変に高い。様々な機器、制御方法を駆使して、非常に高い安全を確保している。例えば、危険個所に手を入れようとする、センサーなどが感知し即座に安全側に停止するといった具合である。この工場に、犬や猿をときはなってもけがひとつしないのではないのか？と思うほどである。しかし一方で、中小企業の工場などでは、これまずいんじゃないの？というような状況がある。では、非常に安全性の高い工場で20年働いた人が、安全性の低い設備の多い工場に転職でもしたらどうなるだろうか？ 20年間の作業習慣や意識は、身にしみついている。今までは、間違っても手を入れても設備が止まってくれた。しかし、転職先では違うのである。とても心配になる。

・おわりに

ただだと思いつくままに書いてみたい、まとまりがなく申し訳ない。事例を挙げながら書きだすときりがないので、この辺にさせて頂く。

いずれにしても、私たちは常に危険と隣り合わせで、生活、遊び、仕事している。交通安全については幼稚園から教育がなされているが、安全一般ということになると、体系だった教育はなされていないのが現状ではないだろうか。

そろそろ、幼児期からの安全教育が必要になってきている気がする。

以上

[岐阜県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 田島 暎久 〒509-0108 各務原市テクノプラザ1-1 テクノプラザ内
TEL : 0583-79-0580 FAX : 0583-85-4316 Email: gcea9901@ybb.ne.jp